

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
病態解析学	3年次	必修	講義	1単位（30時間）	金子 博司 ※
授 業 概 要					
検査診断学の側面からエビデンスに基づいた病態解析を学ぶ。主に、Reversed Clinicopathological Conference(RCPC)やPBLを取り入れ、アクティブラーニングを通して病態解析、検査診断や治療に関して包括的に理解を深める。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・各々の検査意義を説明できる。 ・臨床検査で実施されている検査値から特定の疾患を推測できる。 ・RCPCを通して病態理論や検査値の変動を理解できる。 ・PBLを通して患者QOLの向上につながる要因を理解できる。 					
実務経験のある教員					
五十嵐康之、星野ちなみ、野邊八重子、金子博司：病院での臨床経験を踏まえ担当科目を概説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1-2	血液検査による病態解析				五十嵐 康之 ※
3-4	病理細胞検査による病態解析				星野 ちなみ ※
5-6	一般基礎検査による病態解析				小林 浩二
7-9	臨床化学検査/臨床免疫検査による病態解析				小丸 圭一
10-12	生理機能検査による病態解析				野邊 八重子 ※
13-15	微生物検査による病態解析				金子 博司 ※
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書及び配付資料を用いて理解を深めること。 ・記憶の定着を促すため、定期的にWEB教材による知識の確認を行うこと。 ・国家試験形式の問題に取り組むこと。 ・RCPCに積極的に取り組むこと。 					
評 価 方 法					
定期試験により評価する。					
先 修 科 目					
基礎分野、専門基礎分野及び専門分野のうち、1年次及び2年次に配当されているすべての必修科目					
教科書、参考書					
<p>[教科書]</p> <p>血液検査学Ⅰ・Ⅱ、病理細胞検査学Ⅰ・Ⅱ、臨床基礎検査学、臨床化学Ⅰ・Ⅱ/免疫検査学Ⅰ・Ⅱ、生理機能検査学Ⅰ～Ⅴ及び臨床微生物学Ⅰ・Ⅱで使用した教科書を利用する。</p> <p>[参考書]</p> <p>エビデンスに基づく検査診断実践マニュアル（著者：市原清志 出版：株式会社日本教育研究センター）</p> <p>異常値の出るメカニズム（監修：河合忠 出版：医学書院）</p> <p>検査値を読むトレーニング ルーチン検査でここまでわかる（著者：本田孝行 出版：医学書院）</p>					